平成30年度　施設の自己評価

・その日の保育で終わってまわない様に、振り返りを行い、課題を見つけ、計画を立てる。と連続性のある保育を目指した。

・保育理念について、理解しているつもりでも「正しく説明できますか」と問われると自信がなくなる。改めて考え保育を行った。

・保育を行う上で、職員間のコミュニケーションの大切さを改めて感じる。

・ヒアリハットなどは、その時だけの問題にせず保育士間で共有し、次につなげていきたい。

・子どもの様子を落ち着いて見ることができるようになった。

・クラスの中で、保育に関する様々な意見を話す機会を設けた。

・課題が発見できてよかった。具体的に少しずつ解決していきたい。

・保育所の社会的責任について説明出来なかったので、保育指針を見直しました。

・子どもの成長を10の姿や、小学校へ行ってからの事を意識しながら保育するように心がけられるようになってきた。

・保育のやり方を先輩から学んだり、書籍や研修から知識を得るよう努力している。

・自分の保育について、同僚に相談し客観的な意見を求めたりした。

・保護者に子どもの体調等を伝える時、保護者がどんな内容をどのように伝えてほしいかを考え分かり易く伝えることを心掛けるようにしている。

・小学校との連携についてまだ理解していない。

**まとめ〈質の向上の為の今後の取り組み〉**

年度途中にチェックリストを使い保育についてチェックした。そのチェックリストを踏まえ年度末に自己評価を行った。

保育士個々が保育を見つめ直し、改めて学び直したり、学び始めたり等の良い機会になっている。また、学び直しなどのきっかけとしてのプラスの他、課程としてのプラスの側面もみられる。さらに、個々の向上だけでなく、施設全体の質の向上につながる様な職員間の話し合いや、情報共有等の時間や機会の必要性について多くの意見が見られた。時間、場所の確保をしていき恒常的にそれが行われ、質の向上への良いサイクルになるようにしていければと思う。

新年度から職員室を増設しノンコンタクトタイムを作った。幼児担任全員がこの時間集まることで、情報共有や振り返りの話し合いが出来る他、事務・業務を行い持ち帰り仕事の削減、残業の削減を図っている。この様な取り組みにより、子どもに対する理解や、保育内容の充実、人材確保を続けていくことが出来ればと思う。

保育方針や小学校との連携については「理解不足」「また、あまり知らない」等の意見が見られたので、今後、説明や確認を行う。

研修や専門機関との連携も今後充実させていきたいと考える。